議 事 録

会 議 名　　令和 8 年度　第 3 回 村上市総合計画審議会

開催日時　　令和 8 年 9 月 17 日（木）

会　　場　　村上市役所　5 階 第 5 会議室

出 席 者　　【委員】
青山委員(オンライン)、飯塚委員、佐々木委員、宍戸委員、長島委員、畠山委員
【村上市】
山田課長、田村室長、横山係長、増子係長、相馬主査、井上主査

発言者	議事内容
事務局	1 開会［進行］
事務局	2 挨拶［進行］
会長	［あいさつ］
現行総合計画等の進捗状況	
会長	3 議事 （1）現行総合計画等の進捗状況について［進行］
事務局	［資料説明］
会長	資料1-1及び資料1-2は非常に分かりやすく作られている。初めて見る方でも、特に令和3年度から令和7年度までの推移をA・B・Cで色分けして示していることで、これまでの経過が分かりやすく、市民にも伝わりやすい資料となっている。他の自治体と比べても、よく工夫された資料であると感じており、今後も引き続き取り組んでいただきたい。 一方で、総合計画の進捗状況を評価すること自体が目的ではなく、評価結果を今後の政策のさらなる充実や展開につなげることが重要である。また、その状況を市民に示しながら取組を進めていくことも、評価及び評価結果を公表する

発言者	議事内容
	意義である。今後も、ホームページ等を活用し、評価結果や取組状況を市民に分かりやすく伝えていただきたい。
委員	基本目標1の政策分野3「高齢者福祉」について、2/19ページの「介護人材バンクマッチング人数」は、現況値が0人、令和8年度の目標値が5人となっているが、これまで0人のまま推移している。この指標をどのように捉えればよいのか、その設定の経緯も含めて教えていただきたい。
事務局	政策分野3「高齢者福祉」の「介護人材バンクマッチング人数」については、介護人材バンクへの登録前に市内の別の事業者への就職が決まるなど、人材バンクに登録することなく就職につながるケースがあることから、登録者数が0人で推移している状況である。
委員	人材バンクに登録する前に介護事業所等への就職が決まっているのであれば、この数値が0人であること自体を必ずしもネガティブに捉えるものではないと理解した。そのような実態を踏まえると、このKPIそのものを次期計画では見直した方がよいのではないか。 現在のKPIでは、0人という数値だけを見ると、取組が進んでいないという印象を与える可能性がある。一方で、実際には人材バンクを介さずに就職につながっているケースもあるとのことであるため、実態を適切に把握できるKPIとなるよう、設定の仕方を検討していただきたい。
会長	介護人材を現場につなげることが本来の目的であり、その成果を測る一つの指標として「介護人材バンクマッチング人数」が設定されている。しかし、人材バンクを経由した人数ではなく、最終的に介護人材が就労につながった人数で成果を測ることが重要であると考える。委員の指摘のとおり、次期計画では、こうした実態を踏まえて指標の設定方法を見直す必要があるのではないか。
委員	2点伺いたい。 まず、1/19ページの「11 保育士資格取得支援事業」について、6時間以上勤務する職員の制度利用者数は、令和3年度以降、1人から4人程度で推移し、C判定が続いている。保育士資格の取得を促進することは重要であると考えるが、制度の利用促進に向けて、どのような働きかけを行っているのか。

発言者	議事内容
事務局	政策分野1「子育て」の11番「6時間以上勤務する職員の制度利用者数」については、市内の保育園に勤務する保育士資格を有していない職員に対し、チラシ等を配布して制度の周知を行っているが、現在のような利用状況で推移していると担当課から聞いている。
会長	11番の数値について、令和6年度までは実績値が増加している一方、累積値であるにもかかわらず、令和7年度は3人に減少している。この点については確認が必要である。市民が見た際に疑問を感じる可能性があるため、資料を公表する際には、数値を十分に確認していただきたい。
委員	保育士は、朝早くから夕方や夜まで勤務するなど、研修や自主的に学ぶための時間を確保することが難しい状況もあり、そうした勤務環境が制度利用の妨げとなっているのではないか。制度の利用促進だけでなく、資格取得に取り組みやすい環境を整えることも重要であるため、そうした取組も進めていただきたい。 次に、11/19ページの「水産業」について、全ての指標がC判定となっているが、近年の鮭の不漁などが影響して、このような結果となっているのか。
事務局	まず、1番目の「水揚量」と3番目の「水揚高」については、主力魚種であるイカや鮭の不漁が影響している。特にイカは近年漁獲量が減少しており、鮭についても厳しい状況が続いている。要因としては海水温の変化などが考えられるほか、専門部会では、日本海でマグロが増えており、その餌となるイカへの影響もあるのではないかとの意見があった。 市としては、次期計画において、主力魚種の変化も視野に入れた取組を進めることとしている。現在、イカに代わってズワイガニの漁獲が増えていることから、魚種の変化に対応した取組を進めるとともに、新たに鮭の養殖についても主要施策に盛り込み、対応していきたいと考えている。 2番目の「新規就業者数」については、親から子への事業承継は含めず、新たに漁業に参入した人を対象としているが、その人数が0人で推移しているため、C判定となっている。専門部会では、岩船港に研修で若者が訪れているものの、実際に漁業を体験する中で、就業にはつながらないケースが多いとの話もあった。漁業に対するイメージと実際の仕事とのギャップもあると考えられ

発言者	議事内容
	ることから、今後は、そのギャップを埋め、就業につなげるための取組も必要であると考えている。
委員	6/19ページの「生活衛生」の1番「1人1日当たりの家庭系ごみ排出量」は年々減少している一方で、その下のリサイクル率も低下している。家庭系ごみの排出量が減少しているにもかかわらず、リサイクル率も低下しているのはどのような理由によるものか。人口減少によってごみの総量そのものが減少しているということなのか、それとも人口の増減とは関係のない指標なのか。
事務局	リサイクル率については、家庭系ごみに加え、ごみ処理場で焼却した際に発生する焼却主灰の再資源化も含めて算出している。近年、焼却主灰の再資源化にかかるコストが増加しており、再資源化する量を減らしていることから、焼却主灰のリサイクル率が低下している。 家庭系ごみのリサイクル率そのものが低下しているわけではないが、焼却主灰の再資源化率の低下が全体のリサイクル率に大きく影響している。このため、第4次総合計画では、家庭系資源ごみのリサイクル率に絞って指標を設定している。
委員	14/19ページの「学校教育」について、小中学生の偏差値平均に改善が見られない状況であるが、現在、具体的にどのような対策を行っているのか。対策を行っているにもかかわらず改善が見られないのであれば、新たな方策についても検討する必要があるのではないか。 秋田県など、人口減少が進んでいる地域であっても教育水準が高い地域がある。そうした地域と比較しても、本市では偏差値平均の改善が見られないことから、その要因について、さらに踏み込んだ検証が必要ではないかと考えるが、現在検討していることはあるのか。
事務局	学力については懸念しているところであり、学力向上研修会などを通じて教員が研修を行うとともに、NRTの検査結果を分析し、授業改善に反映するなど、毎年度対策を行っている。一方で、学年が変わることで児童生徒の特色や雰囲気も変わることなどから、十分な改善が見られていない状況である。 また、不登校児童生徒への対応などが増えていることにより、授業改善に十分

発言者	議事内容
	な時間を確保することが難しい状況もあると聞いている。しかし、このままでよいとは考えておらず、引き続き分析結果を授業改善に反映し、学力向上に向けた取組を進めていくとの回答が担当課からあった。
委員	現場の教員の負担が増加し、対応できる業務量に限界が生じているのであれば、人員を拡充することも必要ではないかと考える。こうした教員の負担や人員体制について、現場から何か意見や要望は出ているのか。
事務局	直接現場の教員から聞いたものではないが、他の業務に時間を取られることが多く、授業改善に十分な時間を充てることが難しい状況であるとの回答はあった。
会長	私も教育現場に携わる者として、今の説明については理解できるが、数値が低いことの理由を説明するだけではなく、その要因に対してどのような改善策を講じていくのかが重要である。 例えば、学年によって児童生徒の特色が変わることは毎年起こり得ることであり、それを踏まえた対応策を検討する必要がある。低い数値が継続しているのであれば、対症療法的な対応だけではなく、中期的な視点に立って改善策を検討すべきである。 人員不足が要因であれば、教員の加配を求めることや、それが難しい場合には、市単独の取組を含め、様々な事業を活用して学校現場を支援することも考えられる。こうした課題は村上市に限ったものではないことから、他の自治体の事例も参考にしながら、要因を分析し、中期的な視点で対応策を講じていく必要があると考える。
委員	10/19ページの「農業」について、次期総合計画の策定に向けて専門部会で議論を行い、既に次期計画の方向性が示されているが、現行総合計画において農業や水産業などでC判定が多い状況を踏まえ、その課題への対応を強化する内容となっているのか。 次期計画の検討を進める中で、今回、現行総合計画の進捗状況が示されているが、現行計画で明らかになった課題を次期計画に反映するなど、現行計画の検証結果と次期計画の内容がきちんとつながっているのか確認したい。

発言者	議事内容
事務局	今回の検証に当たっては、昨年度の審議会の答申や審議の中で出された意見を整理し、専門部会に参加した公募市民や関係団体の皆様に示した上で、それぞれの政策分野の現状や課題について議論してきた。そのため、事務局としては、現行計画における課題を共有しながら、専門部会で次期計画の検討を進めてきたものと認識している。 また、今回の検証結果は、第4次総合計画の策定に活用するだけでなく、C判定が継続している指標について要因を確認し、今後の具体的な取組につなげるとともに、今後策定する実施計画にも生かしていきたいと考えている。
会長	要因分析と、それを踏まえた対応は継続して取り組んでいく必要があるため、引き続き市としてしっかりと進めていただきたい。
委員	数値について、2点確認したい。 1点目は、10/19ページの「農業」の7番目「村上茶振興対策事業」の栽培面積について、令和2年度の現況値から令和3年度までは増加しているが、それ以降は減少し、C判定となっている。累計の指標となっているにもかかわらず栽培面積が減少しているのは、何か要因があるのか確認したい。
事務局	栽培面積が減少した理由については、村上茶を栽培していた方が栽培をやめたことにより、栽培面積が減少したものである。
委員	もう1点は、14/19ページの「学校教育」の7番及び8番の「不登校発生率」について、小中学校の児童生徒数自体も年度ごとに減少しているのではないか。同じ不登校児童生徒数であっても、母数となる児童生徒数が減少すれば、不登校発生率は上昇することになる。 そのため、次期計画の目標設定に当たっては、児童生徒数の減少など母数の変化も考慮して指標や目標値を設定する必要があるのではないか。実際の人数が増えていないにもかかわらず、数値上は悪化しているような印象を与えることがないよう、目標設定の際に検討していただきたい。
事務局	学校教育の担当課とも話をしたところ、児童生徒数が減少していることについては懸念しているとのことであった。そのため、次期計画の目標設定に当たっては、人数と割合のどちらを指標とすることが適切か検討するよう担当課に伝

発言者	議事内容
	える。
	基本計画（案）
会長	３ 議事 （２）基本計画（案）について［進行］
事務局	［資料説明］
委員	2点お話ししたい。 まず、基本計画のレイアウトについては、非常に見やすくなったと思う。以前、掲載する順番を変えてはどうかと意見を述べたが、「将来に向けてみんなでできること」にノートと鉛筆のイラストが配置され、親しみやすく、市民が自分事として考えられる総合計画になっていると感じる。修正していただき、市民の一人として大変よいと思っている。 2点目は、資料5の「MURAKAMI VOICE」についてである。どこに掲載するかは今後の検討になると思うが、このような形で市民の声を掲載することは非常によい取組だと思う。 特に、私が参加した第4部会では、若手の林業関係者や農業者が参加しており、2回の専門部会で終わってしまうことを残念に感じている様子も見受けられた。専門部会に参加した方々にも、自分たちの意見が総合計画につながっていることを知っていただくことが大切である。また、市民にも、こうした方々の参加によって総合計画がつくられていることを知っていただくという点で意義がある。 市にはご苦労をおかけすると思うが、「MURAKAMI VOICE」はぜひシリーズ化し、専門部会に参加した方々をできるだけ多く紹介していただきたい。市民の声を反映した総合計画であることや、こうした方々の力添えによって計画の実現につながっていくことを伝えるためにも、継続的に発信していただきたい。
会長	私も非常に素晴らしい取組だと思う。「MURAKAMI VOICE」は、他の自治体の事例などを参考にしたものなのか。

発言者	議事内容
事務局	前回の審議会において、委員から新聞のコラムのような形で市民を紹介してはどうかとの意見をいただき、それを参考に作成したものである。
会長	アイデアを出していただいたことは承知しているが、このような取組を行っている自治体が他にもあるのかということである。私が見た限りではあまり例がなく、全国的に見ても珍しい取組ではないかと思う。それくらい価値のあるものだと感じている。 特に資料3では、「将来に向けてみんなでできること」に加え、「私にできること」として自ら書き込めるようになっており、市民が総合計画を自分事として捉えることができる工夫がされている。 また、「MURAKAMI VOICE」によって、たとえ参考資料という位置付けであっても、市民の顔が見える総合計画になることは画期的だと思う。総合計画は行政の文章や資料になりがちであるが、市民の顔が見える計画という点では、全国的に見ても特徴のある計画になると思うので、その点も含めて積極的に発信していただきたい。 「MURAKAMI VOICE」については、ホームページでの発信だけで終わらせるのではなく、総合計画の付属資料などにも掲載していただきたい。
委員	お二人の意見と同様、非常に見やすくなっており、例えば中学生や小学生が見ても分かりやすいと感じた。最後に「私にできること」としてイラストも配置されており、思わず鉛筆を持って、自分にできることを書いてみたくなるような工夫がされている。また、これに限らず、これまで出された様々な意見を精査し、よりよいものとなるよう対応されていると感じた。 意見が3点ある。 1点目は、資料3の「あなたにできること・取り組みたいこと」についてである。この表現は分かりやすいが、さらに「あなたなら何からはじめますか」まで入れると、特に子どもにとっては、何か始めることを書かなければならないと感じる可能性がある。「私にできること・取り組みたいこと」程度にとどめた方が、書く際に迷わず、自由に考えられるのではないか。

発言者	議事内容
	2点目は、「MURAKAMI VOICE」についてである。より多くの方に発信していただくのがよいと思う。今回の資料には第3部会の方が掲載されていないが、今後、様々な部会の方を順次掲載していくという考えでよいか。 3点目は、資料4-5の1/10ページ左側、上から5番目の「男女平等とDV・ハラスメントへの対応」の表現についてである。「男女の固定的な役割分担意識は特に男性に依然として残っている」とあるが、例えば、「男女の固定的な役割分担意識は徐々に解消されているものの、依然として男性には残っている」といったように、まずこれまでの取組による成果を示した上で、残された課題を記載した方がよいのではないか。最初から否定的な表現にすると、これまでの取組そのものが否定されているようにも受け取られるため、表現を工夫していただきたい。
会長	特に3点目の意見については、表現の修正を検討していただきたい。
委員	皆さんがおっしゃるように、非常に見やすく、よいレイアウトになっていると思う。 また、自分で書き込む部分もあることから、学校教育の中でも活用できるのではないか。例えば、児童生徒に冊子を配布して授業の中で活用することで、村上市についてより深く知ってもらう機会にもなると思う。 計画期間は令和13年度まであるため、子どもたちにも冊子を持ってもらい、その時々で自分たちにできることや取り組みたいことをテーマとして選び、考えたり実践したりするような活用ができるとよいと思う。
会長	村上市では、総合計画を冊子として印刷した場合、市民や事業者など希望する方には無料で配布しているのか。それとも、価格を設定して販売しているのか。
事務局	これまでは無償で配布している。
会長	そうすると、基本的には増刷することはないのか。

発言者	議事内容
事務局	これまで増刷したことはない。
会長	委員の意見のように、学校教育の現場で総合計画を活用するようになれば、冊子の需要も増えることが考えられる。その場合には、例えば1冊300円や500円など、価格を設定して販売することを検討してもよいのではないか。 私が約20年前に福岡市で総合計画の策定に携わった際には、冊子を1冊1,000円程度で販売しており、実際に購入する方もいた。こうした事例もあることから、冊子の配布や販売の方法について、事務的に検討していただきたい。
委員	裏面については、先ほど委員からも意見があったとおり、子どもたちに参加してもらい、自分たちにできることを書き込むことは、郷育などの学校教育において非常によい教材になると思う。 一方で、子どもたちが活用することを考えると、表面の内容は少し難しいのではないか。作成する側の負担は増えることになるが、学校教育で活用しやすいよう、子ども向けに分かりやすくしたものを作成することも検討してはどうか。
委員	皆さんがおっしゃるとおり、非常に見やすく、分かりやすい構成になっており、感謝申し上げる。今後、この文章案を資料3のようなレイアウトに仕上げていく作業は大変だと思うが、完成した計画を楽しみにしている。 その上で1点、「MURAKAMI VOICE」という新たな取組については、私も賛成である。ただし、専門部会に参加した方々の声を掲載する際には、本人への確認を丁寧に行っていただきたい。特に関係団体から参加している方については、発言の中に個人としての意見と、関係団体を代表した意見の両方が含まれている可能性がある。 発言が形として残ることになるため、掲載内容が関係団体の考え方と異なるなど、後に認識の相違が生じることがないよう、掲載する内容や表現について、本人や必要に応じて関係団体の了解を得ながら丁寧に進めていただきたい。 全体としては、皆さんと同様、非常によい取組であると考えている。
会長	今の委員の意見も踏まえると、「MURAKAMI VOICE」を掲載するに当たっては、

発言者	議事内容
	どのような内容を書いていただくのか、あらかじめ一定の基準や方針を示しておくとよいのではないか。その方が、掲載される方にとっても書きやすく、話しやすくなると思うので、検討していただきたい。
	総合戦略（案）
会長	３ 議事 （３）総合戦略（案）について［進行］
事務局	［資料説明］
会長	これまでの意見を踏まえて修正していただいた。ほかに意見はないか。
委員	（意見なし）
	基本構想（案）
会長	３ 議事 （４）基本構想（案）について［進行］
事務局	［資料説明］
会長	資料7-1の8/9ページの地図について、これまでの「市内公共交通軸」を「生活ネットワーク」に変更したことはよいと思う。一方で、生活ネットワークを灰色の実線で両端矢印として表示すると、国道と同じ色になる。線の太さや矢印の有無に違いはあるものの、一見すると国道と区別しにくいため、表示方法について留意していただきたい。
委員	説明を伺い、非常に分かりやすく、意欲的な内容になっていると感じた。その上で、2点コメントしたい。 1点目は、先ほど会長からも指摘があった8/9ページについてである。右側の修正後の図は非常に分かりやすく、様々な文言が盛り込まれ、一目で内容を把握できるような表現になっている。一方で、写真の上にある「つなぐが新たな価値を生み出す」というフレーズが、背景の色と重なってやや見づらくなってい

発言者	議事内容
	るのがもったいないと感じるため、文字と背景の色の組み合わせなどを検討していただきたい。 2点目は、最後に説明のあった総合計画の名称についてである。スケジュール上可能かどうかは分からないが、市民から名称を公募することも一つの方法ではないかと個人的には考えるが、いかがか。
会長	私もその点については考えたが、スケジュール上の時間が限られていることに加え、公募した場合に、寄せられた案をどのように取りまとめるかという課題もある。 最終的には市が決定することになると思うが、その検討過程を、庁内での検討にとどめるのか、審議会まで広げるのか、あるいは市民からも意見を募るのかなど、様々な方法が考えられると思う。
委員	一つの考え方として、専門部会に参加していただいた皆様に意見を伺う方法もあるのではないか。市民から広く公募するとなるとスケジュール的に厳しく、一方で審議会の中だけで検討するのでは範囲が限られる。 せっかく多くの方々に専門部会へ参加していただいているので、総合計画の全体像を示した上で、名称について意見を伺ってみることも一つの方法だと思う。
委員	資料7-1の1/9ページについて、将来像の「つながりと挑戦で、未来をつくるまち村上」は、非常によいタイトルだと思う。特に「つながり」は、計画全体を通して重要なキーワードである。掲載されている写真からは、地域や歴史など様々なつながりが感じられるが、人と人とのつながりを表す写真がないため、笑顔や人同士の交流が感じられる写真を加えてはどうか。そうすることで、人と人とのつながりをこれまでも大切にしてきたことが、より伝わると思う。 また、9/9ページの「共創の連携」に、「男女がともに自分らしく参画・活躍できる環境づくり」を加えていただき、全ての政策分野に共通する重要な視点が盛り込まれたと感じている。 私は男女共同参画審議会にも出席しているが、毎年度の進捗状況を見ると、全

発言者	議事内容
	庁的に男女共同参画の視点を取り入れた取組が行われている一方で、その意識や取組には部署によって温度差があると感じている。今回、この視点を総合計画に位置付けることで、どの部署も他人事ではなく、自ら取り組むべき共通の視点であることを認識し、全庁的に取組を進めていただきたい。
会長	先ほど委員からも意見があった総合計画の名称の決め方については、委員の意見も踏まえて事務局で改めて検討していただきたい。その上で、どのような考え方や方法で名称を決定するのかを整理し、早急に方針を示した方がよいのではないかと思う。
事務局	４　その他 ［次回開催予定等について連絡］
事務局	５　閉会 ［進行］